

観光情報学会・第3回全国大会 開催案内

きたる6月13-14日に市内で開催される観光情報学会・第3回全国大会の実施概要およびポスターが完成しましたのでご案内申し上げます。事前告知等でのご協力をよろしくお願い申し上げます。

観光情報学会は平成15年4月に設立され、その趣意は、「観光と情報をキイに地域の活性を真剣に考え、活動していく」ことにあります。主な活動は全国各地に設立された8研究会(さっぽろ、ニセコ、はこだて、沖縄、ゆざわ、かが・のと スノーリゾート ほくだい・がくせい)を中心に担われています。

はこだて観光情報学研究会は現在約80名の会員を擁し、研究会・調査会を定期的実施する一方、「観光標識等についての研究・提言」「湯の川温泉活性化についての調査・研究」など活発な活動続けてきました。

全国大会は、各研究会での1年間の活動の成果の発表の場であると同時に、学会所属の研究者・学生・社会人によるユニークな研究発表、そして、観光と情報を巡る今日的な話題を取り上げての講演・シンポジウムなどの多彩な内容を含んでいます。今回は、札幌、沖縄に続く3回目で、はこだて観光情報学研究会がホストを務めて市内湯の川・花びしホテルを会場に開催のはこびとなりました。

大会テーマは「Global in local(グローバル イン ローカル)」。

観光の「国際化」が進み「大交流時代の幕開け」ともいわれる昨今、一方で観光情報の発信手段の急速なデジタル化が進む中、個々の「地域」(Local)の観光政策・課題をめぐる研究・議論をしていく上でも、もはや地域の特性・独自性のみではなく、世界的・普遍的(Global)な視点やアイデアが不可欠になってきているという認識を示したものです。

特別講演には釧路公立大学の小磯教授をお招きして「地域は観光で自立できるか」というテーマで地域経済の活性化の鍵としての観光産業の位置づけを、さらに函館西部地区で「旧市街をバル街に」というユニークなイベントを成功に導いた深谷氏(実行委員長：レストラン・バスクオーナー)からの発表の2件を予定しています。

パネルディスカッションでは、開催地函館の昨今の状況も踏まえ、東南アジアなどからの観光客の急増をうけての「観光の国際化」に伴う課題を、また観光の形態的・質的变化の事例として「コンベンション観光」の今後の可能性に焦点をあて、各地の専門家の参加もいただいで議論の場をもちます。

さらには「観光と情報学」に関わる約30件の多彩な研究発表(詳しくは公式サイトに)も予定されています。

プログラムはすべて参加無料で、広く一般市民の皆様にご参加いただけるようになっています。

(なお、会場の準備の都合上、ちらし裏面の参加申込書(FAX)または公式サイトからの事前申込をお願いします。)

詳細情報は公式サイトに順次掲載していきます。(サイトからの申込も可能です)

はこだて観光情報学研究会 公式サイト URL: <http://www.sti-hakodate.org/zenkoku/>

参加申込先

はこだて観光情報学研究会(公立はこだて未来大学内)

メール sti-hakodate-jimu@fun.ac.jp

FAX 0138-34-6105

本案内に関するお問い合わせは

鈴木恵二(本大会実行委員長：はこだて公立未来大学 0138-34-6229)

星野 裕(実行委員：広報担当 (有)ビットアンドインク 0138-32-7568)